

若年性認知症とは？



Q どんな病気ですか？

A 認知症は、誰にでも起こりうる様々な脳の病気によるもので、65歳未満で発症すると「若年性認知症」と呼ばれます。記憶力や判断力などの脳の働きが低下し、日常生活や仕事などに支障が出てきます。働き盛りの世代で発症した場合、より多くの困難に直面し、支援も必要となります。

Q 原因にはどんな疾患がありますか？

A 脳が萎縮するアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、パーキンソン病による認知症などがあります。

Q どのくらいの人が発症しているのですか？

A 全国の若年性認知症者は約35,700人と推計されています。
(出典:R2年3月 日本医療研究開発機構認知症研究開発事業調査結果より)

Q 発症したらどんな心配がありますか？

- A**
- ①仕事の継続が困難になることでの経済的問題
 - ②介護により配偶者や家族も仕事に支障が出る
 - ③本人の介護と並行して子育てや親の介護など、介護者にかかる負担が大きい
 - ④親の病気による子どもへの心理的影響
 - ⑤若年性認知症に対する周囲の理解不足、周囲からの孤立 など

「いつもとは違う」と感じたら、ご相談ください

思い当たることは ありませんか？



日常生活の場面

- 大事な約束を忘れる
- 忘れ物が多くなる
- 金銭管理ができなくなる
- 同じ料理ばかり作る
- 味付けが変わる
- 同じものをいくつも買う
- 趣味に関心がなくなる
- 外出したり、人前に出るのを嫌がる
- 性格が変わったように感じる
- 怒りっぽくなる、感情的になる
- 車の運転が危なくなった、小さな事故を繰り返すなど

仕事の場面

- スケジュール管理が適切にできない
- 仕事で失敗を繰り返す
- 複数の作業を同時に行えない
- 段取りが悪くなり作業効率が低下する

体 調

- 夜眠れない
- 頭痛、耳鳴り、めまいがする
- イライラする
- やる気が出ない
- 疲れやすい



このようなサインを見逃さないで

早期受診、早期発見が大事！

「何かおかしい」と感じていても、疲れやストレスのためと思い込み、受診が遅れることがあります。「様子をみよう」などと自分で判断せずに、早めに受診しましょう。認知症は「早期発見」が大切です。

① 治る病気を見逃さないようにしましょう

「治療すれば治る認知症」や、うつ病などの「見せかけの認知症」が見つかることがあります。

② 早期治療で進行を予防できることがあります

アルツハイマー型などの認知症では、薬で進行を遅らせることができると言われています。

③ 症状が軽い段階から準備できます

☆本人が病気を理解できる間に、本人・家族や周りの人が認知症を理解することで、必要な情報を集めたり、将来に向けた準備をすることができます。

☆職場での理解と協力を得て、働き方を見直すことにより、就労期間が延長できる場合があります。

④ 初診日が重要です

在職中（厚生年金加入中）に受診することで、障害厚生年金を受給できる可能性が高くなります。（障害基礎年金の受給要件を満たす場合）

福祉サービスの活用を

支援のために各種の福祉サービスが利用できます。サービス利用により介護などの負担を軽減しましょう。